

Foreword

The Journal of Japanese Botany was launched by Tomitaro Makino in April 1916. It is now edited by The Editorial Board and published bimonthly by The Tsumura & Co. Since its founding, about 9,000 original papers and various reports have been published in 90 volumes, and more than 750 new names for algae, fungi and plants were proposed in the last 10 volumes. The *Journal* has published various items in systematic botany and pharmacognosy including morphology, natural history, research history, and miscellaneous notes on related fields, mainly Asian plants, algae and fungi. The *Journal* is among the most highly regarded journals in its field.

The Editorial Board of *The Journal of Japanese Botany* celebrates its 100th anniversary in 2016. To mark our centenary, we are publishing a memorial issue as an additional number for volume 91. The aim of this issue is to bring original papers and essays on many items as is our tradition and, also, to review the history of the *Journal* on this occasion.

The Editorial Board thanks The Tsumura & Co. for financial supports for the publication of this Centennial Memorial Issue. We thank the authors who contributed papers in the issue for their co-operation. We are indebted to Emily W. Wood (Harvard University Herbaria) for her readings of nearly all the manuscripts in English and to Kanchi N. Gandhi (Harvard University Herbaria) for his nomenclatural advices. Finally, we thank Y. Kadota, J. Murata, K. Hashimoto, H. Yamaji, Y. Noda, M. Sone and H. Watanabe for their editorial works.

15 September 2016

Hiroyoshi Ohashi
Editor-in-Chief

まえがき

『植物研究雑誌 The Journal of Japanese Botany』は 1916 年 4 月に創刊され、本年 100 周年を迎えた。本誌は植物分類学と生薬学およびそれらの関連分野の振興を図るために、植物研究雑誌編集委員会によって編集され、定期刊行物として年 6 冊が株式会社ツムラの援助によって発行されている。これまで本誌には約 9,000 編の学術論文と報告が発表され、また最近 10 年で植物・藻類・菌類の新学名が 750 点以上発表されている。原著論文の他に植物学関連のニュース・新刊紹介なども含まれている。本誌はこの分野における日本の代表的なジャーナルの 1 つと評価されている。

2014 年 3 月に本誌編集委員会は本誌創刊 100 周年を記念して、『植物研究雑誌創刊 100 周年記念号』を刊行することを計画した。『創刊 100 周年記念号』は通常の第 91 巻にプラスした第 91 巻特別号とし、定期購読者には無料で配布すること、ページ数はほぼ 1 巻分相当とし、国内外の研究者に原稿を依頼することとした。原稿を依頼した研究者から 37 編の寄稿を受けることができた。査読後に受理された原稿について門田裕一、山路弘樹、野田葉子が順次編集作業を進めた。同時に英文論文は Emily W. Wood に英文校閲を依頼した。記念号の表紙デザインは邑田 仁が制作した。印刷用の最終原稿は事務局の山路弘樹、野田葉子によって作られた。この準備期間中に『記念号』編集のために植物研究雑誌編集委員会を 2 回開催し、定期編集委員会ではその都度必要な審議を行って進めてきた。2016 年 9 月の研究雑誌定例編集委員会で、記念号はほぼ完成した形で紹介された。

なお、『創刊 100 周年記念講演会』を編集委員会と株式会社ツムラの主催で 2016 年 5 月 28 日に東京大学理学部 2 号館講堂で開催した。『植物研究雑誌』として初めての公開講演会であった。公開講演会で、多数の聴衆の参加を得た。この講演要旨は本誌第 92 巻 (2017) に掲載を予定している。

今回『植物研究雑誌創刊 100 周年記念号』を刊行するにあたり、株式会社ツムラは本号の刊行のための出版費を負担していただき、加藤照和社長には記念講演会開会に際してご挨拶をいただいた。厚く感謝の意を表したい。本記念号に寄稿して下さった著者の方々にお礼申し上げる。Ms. Emily W. Wood (Harvard University Herbaria) には綿密な英文校閲を、Dr. Kanchi N. Gandhi (Harvard University Herbaria) に学名上の問題の解決を、門田裕一、邑田 仁、橋本和則、山路弘樹、野田葉子、曾根美佳子、渡邊仁美氏には長期にわたり編集を担当していただいた。特記してお礼を申し上げる。

2016 年 9 月 15 日

大橋広好
代表編集委員